

文部科学省では、現在薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に向けた作業が行われています。本号では、改訂作業の概要等について、文部科学省高等教育局医学教育課の丸岡薬学教育専門官及び日下部技術参与に寄稿頂きました。是非ご一読ください。

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について



丸岡 充

文部科学省 高等教育局
医学教育課 薬学教育専門官



日下部 吉男

文部科学省 高等教育局
医学教育課 技術参与



文部科学省

コア・カリキュラムとは、大学在籍中に習得すべき知識、技能、態度等を明確にし、到達目標を定めたものであり、これを「コアカリ」と略称しています。薬学教育では、医学や歯学と同様にコアカリが定められておりますが、現在、このコアカリを改訂するという作業が進められています。

コアカリ改訂を行うことになった経緯

現在使用している薬学教育のコアカリは、平成14年8月に日本薬学会により作成された「薬学教育モデル・コアカリキュラム」と平成15年12月に文部科学省で作成された「実務実習モデル・コアカリキュラム」を合本としたものです。

平成18年度から薬剤師養成教育は6年制へ移行し、コアカリに基づく教育がスタートしましたが、6年制の新制度が進むにつれ、大学現場からは、コアカリが過密である、などの声が多く出されるようになりました。各大学に対してアンケート調査を行ったところ、コアカリに関して、項目数が多いことや、カリキュラムが過密なために大学の特色ある教育を行うことができず独自性が発揮できないなどの具体的な意見をいた

薬学生NEWS No.10 CONTENTS

薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について	1~3p
交換留学委員会が3か国から留学生を受け入れ	4p
国際薬学生交流会 & VAMPIRE CAMPAIGN	5p
日本薬剤師会 創立120周年記念式典を挙げる	6p

だきました。また、日本薬剤師会をはじめ諸団体からは、コアカリ作成後年月が経過し、学術の進歩及び薬剤師業務の変化等のため見直しが必要であるといった意見や、医療機関における薬剤師の役割も病棟活動を中心に多様化・拡大し、特にチーム医療の一員としての薬剤師の役割が重視されるようになってきているといった意見が寄せられました。そこで、文部科学省に置かれた「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」（検討会）では、これらの意見を踏まえた議論を重ね、今回コアカリの改訂を行うことを決定しました。

針の作成を行う組織として検討会の下に専門研究委員会を設置しました（図1）。これらの委員会で議論を重ね、今回の改訂の大きな柱として、①6年制薬学教育に特化した内容とすること、②現在の薬学教育モデル・コアカリキュラムと実務実習モデル・コアカリキュラムの2つのコアカリを関連づけて一つのコアカリとして作成すること、③薬剤師として求められる資質を明確にし、その資質を身につけるためにこれを学ぶという形で編成すること、という大枠の方針が決定しました（図2）。特に、6年制薬学教育において必修とされている薬局及び病院で行われる薬学実務実習については、医療薬学教育とともに教育の実態や将来の薬剤師の役割を踏まえた抜本的な改訂を行うことになりました。

具体的な改訂作業については日本薬学会に委員会が置かれ、各大学の代表者と薬局で働いている薬剤

コアカリの検討状況

今回、薬学のコアカリ改訂を行うに当たり、改訂の最終決定は検討会が行うこととし、改訂原案・方

図1 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の体制について



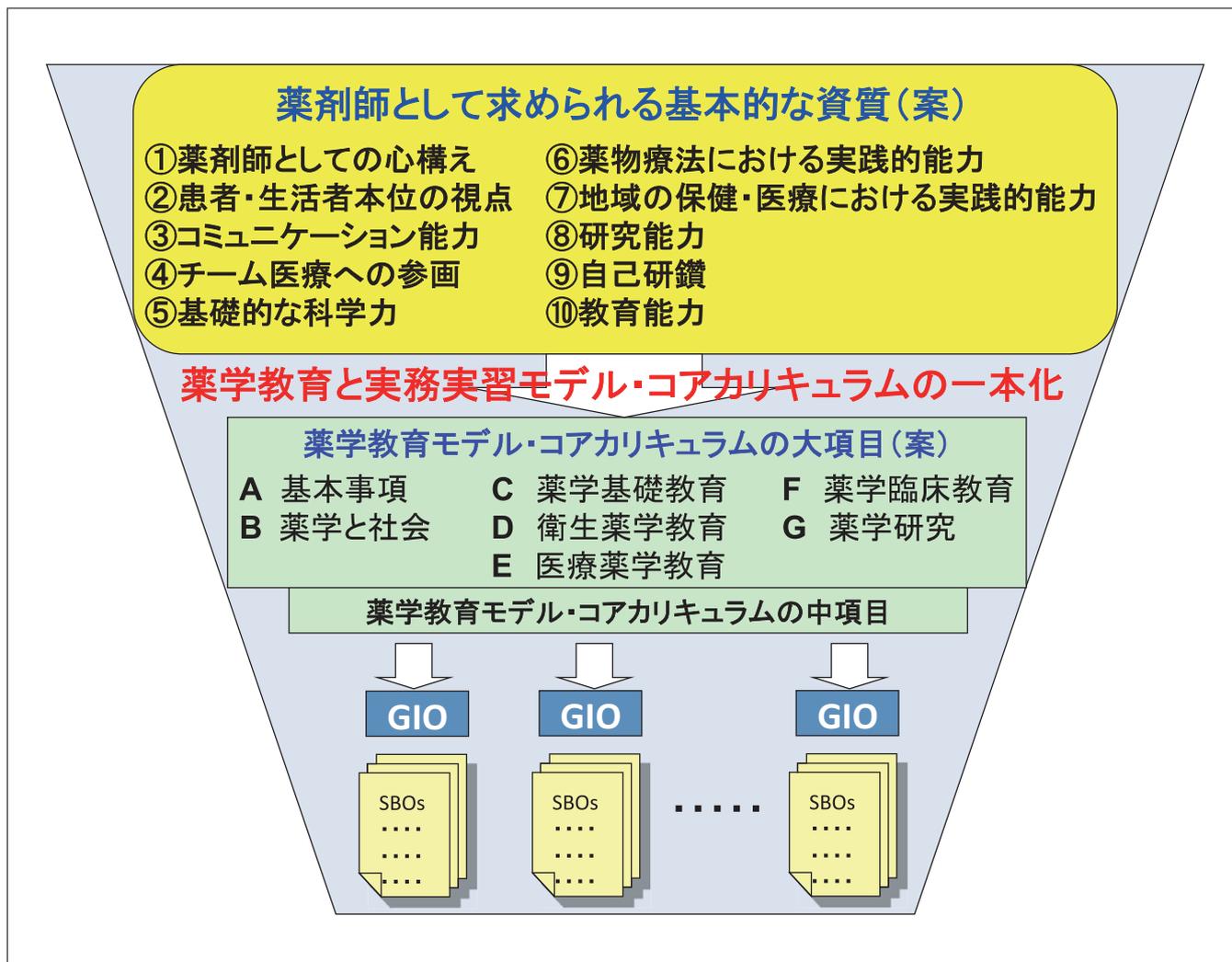
師、病院で働いている薬剤師が中心となり作業が行われています。そこで作成された原案をもとに、検討会及び専門研究委員会において中間まとめを作成し、各大学や薬剤師に関連する団体にアンケート調査を行いました。

今後の予定

今後は、アンケート結果を踏まえて修正作業を行い、さらに、広くパブリックコメントを求め、平成25年度中に最終確定する予定です。その後、新コアカリを基に各大学においてカリキュラムの改訂作業を行っていただき、平成27年度入学生から新しいコアカリを用いた新しい薬学教育がスタートすることを想定しています。

大学での学習は、国家試験に合格することだけが目的ではなく、生涯、薬剤師として活躍していくための基礎となる部分を身につけるために行われるものであると考えています。また、今後、薬剤師は+αの能力を持たないと就職ができないという時代が来る可能性も考えられます。各大学ではそのような時代にも対応できる薬剤師を育成するために、薬剤師として最低限求められる能力をコアカリに基づく教育により身につけさせるとともに、これに追加して、大学独自の特徴ある様々なカリキュラムを用意することが求められています。また、コアカリ改訂に伴い薬局や病院での実務実習も見直しが必要であり、現場の薬剤師の皆さんの協力が必要不可欠です。改訂されたコアカリにより優れた薬剤師が養成されるよう、関係者の協力をお願いしたいと思います。

図2 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に向けた考え —基本的な資質に基づいたコアカリキュラムの改訂—



交換留学委員会が3か国から留学生を受け入れ

—日本の医療現場等を見学—

2013年2月6日(水)～18日(月)／関東・関西

日本薬学生連盟 交換留学委員長 明治薬科大学 5年 寶川 千鶴

◆ 日本の医療を知る

交換留学委員会では関東・関西にて2013年2月6日～18日の約2週間、オーストラリア・インドネシア・チェコから3名の留学生を受け入れました。

この期間中、関東では大学の薬草園見学、薬剤師の方に同行し在宅医療見学、調剤室併設のドラッグストア見学・病院の薬剤室見学・漢方ミュージアム見学・スポーツファーマシストの業務についての説明を聞くなどし、見学先の皆様のご協力のおかげで大変充実した時間を過ごすことができました。

◆ 外国人との交流

また関西では病院・薬局見学に加え大学の研究室見学、公衆衛生

委員会とのコラボ企画のVampire campaign(献血運動)や自国の医療制度や薬学について留学生とプレゼンテーション大会を行い、互いに共通点や相違点を見つけられ、発表をすることによって自分の国の医療についてもっと学びたいという気持ちが強くなりました。留学生たちも見慣れない薬剤や自国にはない薬剤管理システム、薬剤師業務が多かったようで現場の薬剤師の方にもたくさん質問していました。時には留学生が自国の処方箋や薬剤を持参し見せてくれる機会もあり、日本に居る私たちにも大変貴重な経験だったと思います。施設見学のない日は浅草・スカイツリー・渋谷・原宿・京都・大阪などを観光し、日本を満喫してくれた様で、改めて交換留学のやりがいを感じました。

◆ 告知

そして2013年の8月5日～20日、13カ国以上の国から約20名の留学生が関東・関西・東海・九州の4地域に来てくれることになっており、4月からその準備を開始しています。

2月の受け入れで得たものを糧に、私も交換留学委員会スタッフ一同さらなるプログラムの充実を目指します。興味のある方がいらっしゃいましたら下記のアドレスにご連絡ください。留学生と一緒に忘れられない夏休みを過ごしましょう!最後になりましたが、ご多忙の中活動にご協力くださった皆様に心より御礼申し上げます。

【お問い合わせ先】

交換留学委員長 寶川 千鶴
seo@apsjapan.org



病院見学の様子



留学生と京都水族館を訪れた際の集合写真

2013年度執行部 日本薬学生連盟は4月1日付で、下記面々が各役職に着任致しました。

執行役員

- 会長 小林 大翼 (慶應義塾大学6年)
- 副会長 柴原 由季 (東京理科大学5年)
- 内務統括 石破佳永子 (東京理科大学5年)
- 外務統括 阿部 誠也 (京都薬科大学4年)
- 会計統括 瀧本 佳奈 (武庫川女子大学5年)
- 財務統括 仁宮 勇人 (城西大学3年)
- 広報統括 植山 陽子 (武庫川女子大学4年)

執行部

- 渉外委員長 橋崎 友厚 (東邦大学5年)
- 国際交流委員長 高橋 克徳 (慶應義塾大学5年)
- 交換留学委員長 寶川 千鶴 (明治薬科大学5年)
- 公衆衛生委員長 南 絢子 (慶應義塾大学3年)
- 薬学教育委員長 飯塚千亜希 (慶應義塾大学2年)
- 地域連携委員長 橋本 由李 (大阪薬科大学4年)
- 学術委員長 松崎 哲郎 (東京大学5年)
- APPS2013実行委員長 山田真里香 (武蔵野大学6年)

今年度は上記のメンバーを中心に運営を行っていきます。みなさん、どうぞ宜しくお願いします!

【お問い合わせ先】

日本薬学生連盟/APS-Japan

事務局 apsjapan@apsjapan.org URL <http://apsjapan.org/>

Facebook <http://www.facebook.com/APS.Japan> Twitter Official @APS_Japan

【交換留学×公衆衛生】 国際薬学生交流会 & VAMPIRE CAMPAIGN

2013年2月16日(土)

JR京橋駅(大阪市)

日本薬学生連盟 公衆衛生委員長

慶應義塾大学 3年 南 絢子

みなさん、"Vampire Campaign"をご存知ですか?このプロジェクトは、献血への若者の関心の低さをうかがわせる統計結果が出回る中、年齢が近い大学生、しかも医療系学生である私たちが呼びかけることで、より多くの若者に献血に関心をもってもらい、推進しようというものです。通常の呼び込みとは異なり、呼び込む私たちがVampireのコスプレ等をして通行人にアピールするのが私たちのプロジェクトの特徴です。

春休みにインドネシアの留学生が関西に来たので、日本の薬学生、海外の薬学生の双方に、互いの国で行われている薬学生の公衆衛生活動を知ってもらいたい、体験してもらいたいという想いにより、今回「国際薬学生交流会& Vampire Campaign」を企画しました。

■ Blood Donation Workshop

午前中のWorkshopでは、全員英語で自己紹介を行った後、英語で日本の献血事情、Vampire Campaignの活動目的、内容を共有し、意見交換をしました。加えて献血の呼び込みに必要な言葉を日本語で練習しました。

■ Vampire Campaign

午後からは大阪市のJR京橋駅にて、留学生も日本人学生もコスプレをして



Vampire Campaign集合写真

献血の呼び込みを行いました。粉雪が舞い散る中、同曜日の同場所の通常の2倍程の方々に献血をしていただきました。

■ 国際薬学生交流会

献血運動後、インドネシアの献血事情、薬学生による献血推進運動のプレゼンを行っていただきました。献血できる人の基準や献血するまでのチェック手順等、日本とは異なる点があり、興味深い時間を過ごせました。

■ さいごに

今回は近畿圏内だけでなく、関東・中国・四国地方等からご参加頂き、日本各地の学生、留学生共に地元へこのVampire Campaignを持ち帰りたいという意見をもらい、この活動が日本

全国へそして世界へ広がっていく、そんな日も近いのではと思いました。

■ Vampire Campaignの 今後の開催予定

6月の世界献血者デーにあわせ、6月30日に東京にて、9月22、23日に第46回日本薬剤師会学術大会の会場にて行う予定です。これ以外にも、全国で企画予定ですので、興味を持たれた方はぜひご参加ください!

もっと詳しく知りたい!私の地元でも行いたい!という方は、是非公衆衛生委員長までご連絡ください!

【お問い合わせ先】

公衆衛生委員長 南 絢子

publichealth@apsjapan.org



Blood Donation Workshopでの1コマ



国際薬学生交流会において、自国の献血事情等についてプレゼンを行うインドネシアからの留学生(写真左)

日本薬剤師会 創立120周年記念式典を挙行

式典・祝賀会に900人が出席

日本薬剤師会創立120周年記念式典が、6月9日(日)午前11時より、東京・内幸町の帝国ホテルにて挙行されました。

日本薬剤師会は明治26年(1893年)6月11日に設立されて以来、本年で120年目を迎えることから今回の式典が開催されたものです。式典には、常陸宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、政界、官界、医療・医薬関係団体の招待者や日薬関係者ら約900人が出席しました。

当日は、本会生出席副会長の開会の辞に始まり、主催者である本会児玉会長より式辞が述べられました。

続いて、ご臨席いただいた常陸宮殿下からお言葉を賜り、その後、安倍内閣総理大臣をはじめ、伊吹衆議院議長(薬剤師問題議員懇談会会長)、田村厚生労働大臣、下村文部科学大臣、横倉日本医師会会長よりそれぞれ祝辞が述べられました。



式辞を述べる本会児玉会長



来賓として祝辞を述べる安倍総理大臣

更に、来賓紹介が行われ、それに続き、平成5年以降の20年間において、本会諸活動に尽力された709名の方々に対して感謝状の贈呈が行われ、代表して持田日本薬剤師会代議員会元議長に児玉会長より感謝状が授与されました。

式典は、午前11時42分に滞りなく終了し、引き続き正午からは、会場を移し記念祝賀会が執り行われました。



式典の様

祝賀会では、来賓を代表され、麻生副総理等より祝辞が述べられた後、同副総理や国会議員、薬学教育関係者等21名が登壇し、壇上にて鏡開きが行われ、北田日本病院薬剤師会会長の発声で乾杯し、歓談に入りました。

会場各所で和やかな雰囲気歓談が続く中、本会三浦副会長より中締め挨拶が述べられ、午後2時前に散会しました。



盛大に行われた鏡開き

日本薬剤師会及び薬剤師関連のこれまでの主な出来事

1874年(明治7年)	政府は「医制」を公布し、薬舗主(後の薬剤師)に調剤権を賦与。
1889年(明治22年)	「薬品営業並薬品取扱規則」が公布され、薬剤師の名称と職能が規定される。
1893年(明治26年)	全国統一団体たる日本薬剤師会が設立(6月11日)。初代総理(現在の会長)にはおおきまち さねまさ 正親町 実正(伯爵・貴族院議員・東大製薬学科別課卒)が就任。
1925年(大正14年)	薬剤師の身分法である薬剤師法が公布。
1943年(昭和18年)	薬剤師法を吸収して新薬事法が制定され、新薬事法により薬剤師会令が公布。これとともに日本薬剤師会は国の機関となり、会長は内閣が任命し、他の中央、地方薬剤師会役員は厚生大臣あるいは地方庁知事の任命によることとなる。
1948年(昭和23年)	終戦により新薬事法が公布。日本薬剤師会は日本薬学会と合体して、会員の入退会自由の社団法人として改組。この時名称を日本薬剤師協会と改める。
1962年(昭和37年)	日本薬学会は別の社団法人となり、日本薬剤師協会は名称をもとの日本薬剤師会に復した。
1992年(平成4年)	医療法の一部改正が行われ、医療の基本理念が明示され、医療機関の体系化が行われた。この改正で、医療の担い手として「医師、歯科医師、薬剤師、看護婦」と「薬剤師」が明記された。これにより、医療におけるその責任は一段と重くなった。
1993年(平成5年)	日本薬剤師会創立100周年記念式典が、東京・帝国ホテルで挙行。第53回国際薬学会議(FIP会議)が、東京・京王プラザホテルにて開催。
2004年(平成16年)	薬学教育6年制関連2法案が成立。
2006年(平成18年)	薬学教育6年制課程の1期生が入学。
2012年(平成24年)	本会は公益社団法人に移行し「公益社団法人 日本薬剤師会」として新たな1歩を踏み出す。 6年制薬剤師の1期生が社会に巣立つ。
2013年(平成25年)	日本薬剤師会創立120周年記念式典が、東京・帝国ホテルで挙行。